

市況等に関する月例報告書（平成27年5月分）

部 門	市況の概要
（青果部の動向） 全 般	5月の総入荷量は、春先の天候不順により主力産地からの出荷が遅れ、入荷量が減少したことが響き、前年同月比で3%下回った。単価は前年同月比で17%上回った。
（区分別の動向） 野 菜	5月期の野菜の市況は、前半が春先まで日照不足とゴールデンウィーク以降の降雨と朝晩の低温が影響して主力産地からの出荷が遅れ、入荷量が減少した。月の後半は、遅れていた主力産地からの出荷に加えて夏産地からの果菜の出荷がスタートし、入荷量が急増したが、結果として総入荷量は前年同月比3%下回り、単価は前年同月比20%上回った。 根菜類は、前年同月比入荷量は15%上回り、単価は14%上回った。 葉物類は、前年同月比入荷量は12%下回り、単価は53%上回った。 果菜類は、前年同月比入荷量が3%下回り、単価は10%上回った。 土物類は、入荷量は前年同月並み、単価は28%上回った。 6月は青梅が、和歌山、福井、奈良、京都を中心に入荷が見込まれる。和歌山県は、春先からの天候不順に加えて5月の高温障害が重なり、例年の2～3割減の作柄状況である。 福井県は5月の台風による落果が多く、約5割減の作柄である。 価格は、入荷量が少ないながらも、各家庭での需要が年々減少しており、荷動きが悪く、安値で推移するものと思われる。また、加工業者も越年在庫を抱えており、さらに、来年が申年にあたり、申年の梅干しが珍重されることから来年に向けて出来る限り在庫を減らすため引き合いが弱い状況である。 梅干しの材料として紫蘇が6月中下旬に愛知県を中心に入荷予定であるが、作柄は良好ながら、価格は梅の低迷を受けて引き合いは弱いと予想される。 *申年の梅…申年の梅は平安時代、村上天皇が当時流行していた疫病にかかり、治療のために梅干と昆布を入れたお茶で病を克服したことが文献に残されています。その梅干が申年に収穫された梅であったことから、申年の梅は「薬効が高い」「難が申（去る）」「病が去る」などと言い伝えられ、はるか昔から珍重されてきました。また平成十六年は特に六十年に一度の「甲申年」にあたり、別名「還暦梅干」とも言われ、特に「縁起が良い」「厄除け」そして「長寿を願う梅」として大変付加価値の高い限定品になるのです。
果 実	5月期の果実の市況は、春先の天候不良による生育不良と正品率の低下が影響し、前年同月と比べ総入荷量が8%下回った。価格は、品薄に加え5月中下旬の気温高により西瓜やメロンなどの引き合いが強まったことも影響し、単価は5%上回った。 柑橘類は、前年同月比入荷量が5%上回り、単価は3%下回った。 リンゴ類は、産地の残量が少ない中、小玉を中心に引き合いが強く、前年同月比入荷量が7%下回り、単価は14%上回った。 イチゴ類は、前年同月比入荷量が20%下回り、単価は4%上回った。 メロン類は、前年同月比入荷量が7%下回り、単価は13%上回った。

スイカ類は、前年同月比入荷量が１０％下回り、単価が１７％上回った。

６月の季節商材としては、桜桃（さくらんぼ）が山形、山梨、北海道を中心に入荷が見込まれる。

本年の作柄は、春先からの天候不順により、主力の「佐藤錦」の生産量は例年の約１割減となっている。北海道は、６月下旬から７月中旬までの入荷を見込んでいる。

価格は、昨年は非常に品質が悪く安値であったことと、今年の作柄を反映してやや高値で推移するものと思われる。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン	長崎を中心に鹿児島，千葉から入荷され，入荷量が前年同月を１４％上回ったが，加工業務関係の荷動きが活発となり，単価は２８％上回った。
西洋ニンジン	徳島を中心に長崎，兵庫から入荷され，入荷量が前年同月を３０％上回ったが，他品目の高値推移が影響し，単価は２８％上回った。
【葉菜類】 ハクサイ	茨城を中心に九州，和歌山，岡山から入荷され，入荷量が前年同月を２５％下回り，絶対量不足から加工業務関係の荷動きが活発となり，単価は１９３％上回った。
キャベツ	兵庫，愛知，茨城，京都，九州から入荷され，入荷量が前年同月を１４％下回り，一般消費・業務加工ともに需要が高く，単価は９８％上回った。
ホウレンソウ	徳島，福岡，岐阜，京都，滋賀から入荷され，入荷量が前年同月を３％下回り，単価は１２％上回った。
レタス	長野を中心に兵庫等から入荷され，４月中旬までの降雨が影響して入荷量が前年同月を５％下回り，単価は４１％上回った。
【果菜類】 キュウリ	宮崎，高知，福岡，滋賀から入荷され，入荷量・単価ともに前年並みとなった。
ナス	高知，岡山，熊本，福岡，京都から入荷され，入荷量が前年同月を５％下回り，単価は６％上回った。
トマト	熊本，福岡のハウスものを中心に，京都，滋賀，奈良からも無加温栽培のものが入荷開始し，入荷量は前年同月を４％上回り，単価は１４％上回った。
ピーマン	宮崎を中心に高知，茨城から入荷され，入荷量が前年同月を７％下回り，単価は４４％上回った。
【土物類】 バレイショ （メーク含む）	長崎，熊本を中心に，静岡からも入荷され，入荷量は前年同月並みとなり，他品目の高値推移が影響し，単価は６７％上回った。

タマネギ

兵庫を中心に佐賀等から入荷され、入荷量が前年同月を 9 % 下回り、昨年並みの単価となった。

【その他野菜】

生シイタケ

徳島を中心に広島，岡山，長崎から入荷され、入荷量は前年並みとなり、単価は昨年が連休以降価格が崩れたこともあって 5 % 上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	福岡，熊本，和歌山，香川，愛媛から入荷され，入荷量が前年同月を５％上回り，単価は６％下回った。
ふじ （サン含む）	青森から入荷され，入荷量が前年同月を３％上回り，単価は１８％上回った。
イチゴ	福岡，熊本，大分，佐賀，愛媛から入荷され，天候不順で小玉が多かったため入荷量が前年同月を２０％下回り，単価は４％上回った。
アールス	静岡を中心に高知，熊本から入荷され，生産者の高齢化等で入荷量が前年同月を２５％下回り，単価は２６％上回った。
アンデス	熊本を中心に茨城から入荷され，入荷量が前年同月を７％上回り，単価は１４％上回った。
大玉スイカ	熊本を中心に長崎，高知から入荷され，春先の天候不順で入荷量が前年同月を１０％下回り，単価は１８％上回った。